

上町台地マイルドH O P Eゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

からほり倶楽部(空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト)

共同事業者名 (あれば記入してください)

ロジモク研究会

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(C S C D)

C E L / 上町台地コミュニケーション・ルーム(U-CoRo)

2 事業のテーマ・タイトル

ロジモク減災第2章～地域とともに考える手立ての獲得

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7 月	9 日：打ち合わせ第 1 回=協働者(大阪大学 C S C D、U-CoRo、ロジモク研究会)との今年度事業の方向性検討、U-CoRo 展示協力の内容検討等
8 月	
9 月	7 日：打ち合わせ第 2 回=ロジモク減災現地見学会第 1 回の行程検討ならびに現地対応確認等 7 日：展示協力を行った上町台地コミュニケーション・ルーム(U-CoRo)での第 9 回展示『“減災キャラバン on 上町台地”の道程から』が開幕(2010/1/29 まで)
10 月	5 日：打ち合わせ第 3 回=ロジモク減災現地見学会第 1 回の最終確認、全国路地サミットへの参加・交流検討、ロジモク減災勉強会素案検討 15 日：うえまち日本酒文化機構主催の「白川郷・飛騨高山ツアー」での併催事業として、「ロジモク減災現地見学会第 1 回(通算 2 回目)」『天正地震に消えた帰雲城跡見学』『飛騨高山にみる歴史的街並みでの防災』を実施 講師=岩田崇氏(高山市教育委員会文化財課学芸員) 24 日：「全国路地サミット 2009inKOBÉ」に参加。まち歩きプログラムへ参画しながら「被災地・神戸との交流事業『新長田駅北地区見学会』(通算 2 回目)」を実施 ナビゲーター=松原永季氏(スタジオ・カタリスト) 昨年度のロジモク減災で訪問した神楽坂地区(特活)粋なまちづくり倶楽部(寺田弘氏、木村晃郁氏)メンバーと交流 25 日：(特活)レスキューストックヤードのイベント(名古屋)に参加。東海地域の防災・減災関係者と交流
11 月	2 日：打ち合わせ第 4 回=ロジモク減災勉強会最終確認、現地見学会第 2 回・第 3 回の行程検討ならびに現地対応確認等 10 日：「ロジモク減災勉強会第 1 回(通算 4 回目)」『減災コミュニケーション入門』開催 講師=渥美公秀氏(大阪大学大学院人間科学研究科准教授、(特活)日本災害救援ボランティア・ネットワーク代表理事) 15 日：初めて開催された空堀桃園地区での防災訓練(会場：桃園公園)に参加 15 日：「生野コリアタウン共生まつり 2009」にて減災ゲーム“クロスロード”の『防災・減災ワークショップ』実施

	19 日：「ロジモク減災勉強会第 2 回(通算 5 回目)」『もしも上町断層帯が動いたら～救援ボランティアはどうやって来るの?』開催 講師=栗田暢之氏((特活)レスキューストックヤード代表理事) 21 日：「ロジモク減災現地見学会第 2 回(通算 3 回目)」『上町断層帯を歩く～かかってこんかい! 上町断層ツアー』 ナビゲーター：寒川旭氏(産業技術総合研究所関西センター招聘研究員)
12 月	12 日：「ロジモク減災現地見学会第 3 回(通算 4 回目)」『京都・減災上ル下ル～古都・京都の町家群での減災は如何に』 ナビゲーター：高田光雄氏(京都大学大学院工学研究科教授) 講師=高瀬博章氏(上京区社会福祉協議会会長)、上林研二氏(地域生活空間研究所、祇園町南側地区まちづくり協議会理事)
1 月	26 日：減災カフェ in 上町台地「減災キャラバンの一歩から考える生活文化としての減災」開催協力ならびに参加
2 月	1 日：打ち合わせ第 5 回=今年度ロジモク減災振り返り、来年度事業の検討、減災カフェへの対応確認等 19 日：減災カフェ『「いのちをまもる智慧」の伝え方・伝わり方』開催(ロジモク減災勉強会第 3 回に該当) 語り手=栗田暢之氏((特活)レスキューストックヤード代表理事)、 渥美公秀氏(大阪大学大学院人間科学研究科准教授)、花村周寛氏(大阪大学 C S C D 特任教員)、関川華氏(京都大学大学院工学研究科博士課程) コーディネーター=菅磨志保氏(大阪大学 C S C D 特任教員) 27・28 日：「第 5 回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」に参加

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	路地と長屋にマンションなどまちの構造も住民関係も複雑で、地域への誇りや愛着も強い一方、再開発への動きも加速する空堀界限で防災・減災へのアプローチを具体的に考えていくため、昨年度に引き続き“手立て”の獲得に力を入れました。 そこで、ロジモク減災第 1 章では、地域特性を共有し、ともにアプローチ方法を考えていける講師陣やネットワークを獲得することに、より重きを置きました。 【効果】 ◇ 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)とのタイアップによる関係強化 昨年度も共同事業者であった大阪大学 C S C D との関係をさらに一歩進めるべく、C S C D プログラムである「減災カフェ」と「ロジモク減災」の一体化を試み、企画・広報・運営を協働で行いました。それにより、互いのノウハウの共有、地域事情や研究事情の相互理解などが図られ、今後の中長期的展開をともに考えていくことで合意が得られました。また、空堀界限が防災・減災に関わる研究者のフィールドとも成り得ることで、大学という枠を通じた住民へのアプローチ方法も獲得できました。 ◇ 多彩な講師陣との出会いとつながり ロジモク減災勉強会での講師陣も、昨年度に引き続き研究者や実践者など多彩な顔ぶれを招くことが出来、さらにつながりも継続・発展させていくことができました。 また、これら講師陣には、上町断層や東南海地震などと向き合わなければならない空堀界限や上町台地に、関心を抱いてもらう
-----	--

こともできました。ロジモク減災の取り組みを通じた防災・減災関係者に対する空堀界限や上町台地への注意喚起は、空堀界限はもちろん、上町台地全体での防災・減災力の獲得・向上につながるものと考えます。

◇ 上町台地上や台地外との連携・協働の拡充

上町台地コミュニケーション・ルーム(U-CoRo)との連携にも引き続き取り組んだことで、ロジモク減災勉強会などの事業PRや結果報告を充実させることができました。昨年度協力実施した「減災キャラバン on 上町台地」などで培われた高津宮や下寺町、コリアタウンなど近隣地域とのつながりも継続・強化することができました。

昨年度の課題でもあった近隣の学校へのアプローチについては、大阪府教育センターとの防災・減災での連携・協働を来年度から具体化する方向で調整に入っています。また、同じく課題であった地元地域へのアプローチについても、はじめて開催された防災訓練への参加を通じて、糸口が見えてきました。

ロジモク減災現地見学会では防災・減災に長年取り組む先進地(京都や飛騨高山など)を訪ね、多くの先達たちに出会うことが出来ました。また、昨年度のロジモク減災で出会うことが出来た神戸・長田や東京・神楽坂などの他地域との交流も継続することが出来ました。勉強会の講師も引き受けていただいた名古屋の災害救援NPOとは、相互訪問も実現したほか、静岡県での災害救援図上訓練に参加する契機にもなりました。

こうした他地域との出会いとつながりの拡充から、将来的な防災・減災に対する「地域ネットワーク」の可能性も見えてきました。

今後の
展 望

ロジモク減災も来年度は 3 年目に入ります。いよいよ地元・空堀界限への具体的アプローチを試みる段階となりますが、これまでに獲得したネットワークと今年度得た糸口(防災訓練等)を活かしながら、地元地域とともに継続していける取り組みへと昇華させていきたいと考えます。

◇ 地元地域への防災・減災での具体的アプローチ

地元地域での防災・減災への気運も高まりつつあり、昨年度は空堀桃園地区で防災訓練も開催され、からほり倶楽部も参加しました。講師陣や共同事業者からも地元地域へのアプローチに対して、具体的なアイデアを頂戴したり、協力の申し出を得たりもしています。

来年度はからほりまちアートでの防災・減災イベントの併催、地元地域での防災訓練へのプログラム提案の実施など具体的アプローチを行い、再来年度以降の取り組み拡充に向けたステップを得たいと考えます。

◇ 講師陣や他地域とのネットワークのさらなる拡充

ロジモク減災勉強会や現地見学会は引き続き開催しながら、講師陣や他地域とのネットワークのさらなる拡充に努めます。勉強会と現地見学会については広くオープン開催のものをプラスしつつ、これまでどおり比較的小規模ながら講師と参加者が濃密に交流できる形式も継続させ、新たな講師の獲得も図りたいと考えます。

また、可能性が見えてきた「地域ネットワーク」についても、伝統的街並みや木造密集地域を有する他地域との連携を中心に、その組織化を具体的に検討・打診していきたいと考えます。

◇ 次代の担い手の獲得

防災・減災は言うまでもなく息の長いエンドレスな取り組みであります。ロジモク減災はその立ち上げ期を比較的順調に歩みつつありますが、その取り組みの継続力・発展力を高めるためには「次代の担い手」の獲得も肝要になってきます。

来年度からは「次代の担い手」と成り得る人材の巻き込みも図るべく、10代・20代への働きかけも強めていきたいと考えます。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。